

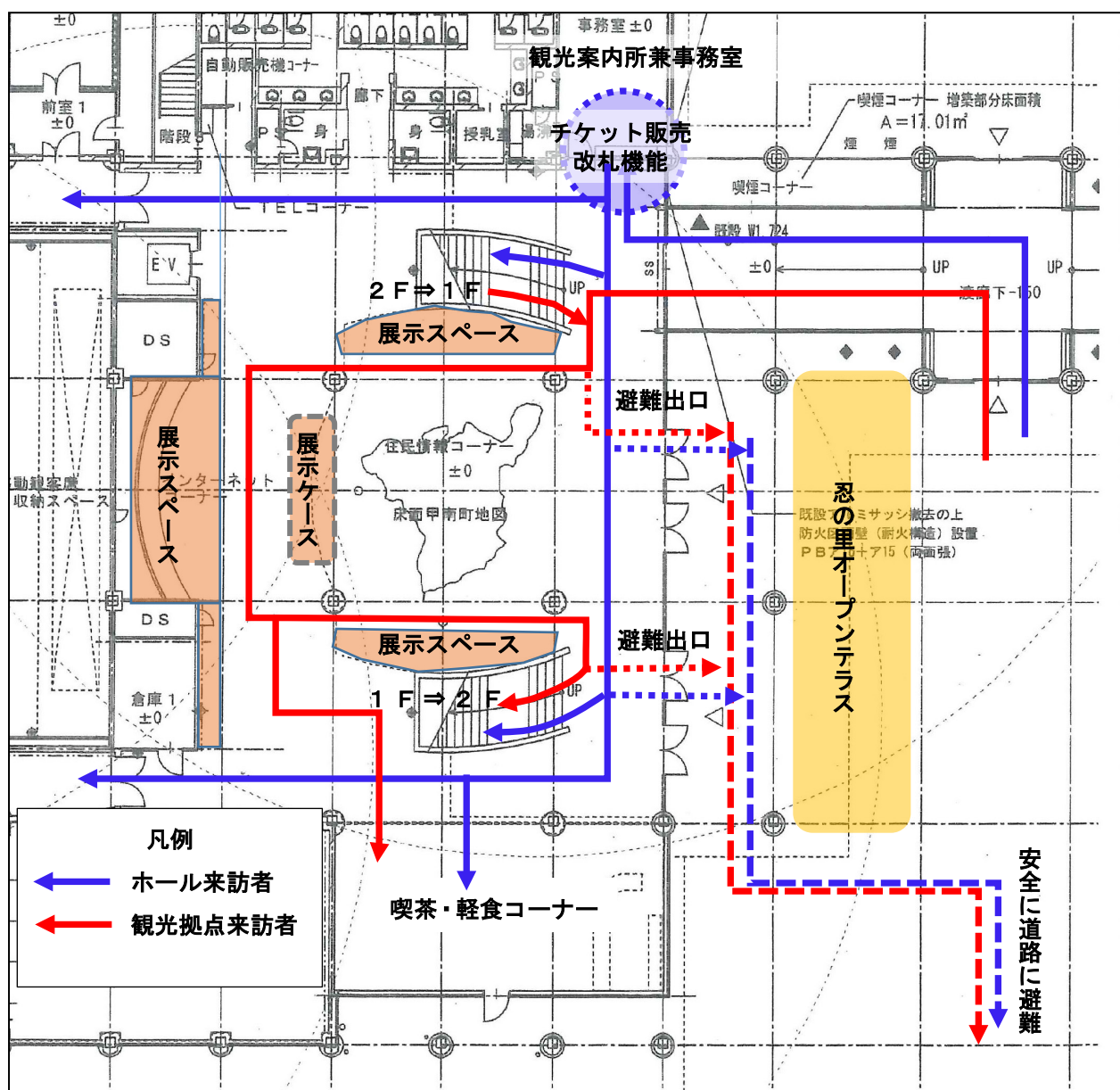
6 展示・ソフト計画

(1) 来客動線の想定

「忍の里プララ」には、多目的ホール利用客や観光拠点施設利用客が同じフロアを利用することや、万が一の災害時における多目的ホール利用者の避難経路の確保等の動線の課題があることから、ホール利用者動線、観光拠点施設利用者動線をそれぞれ下図のように設定する。

また、動線の交錯を避けるため、観光拠点施設来訪者の「順路」を示す案内板を設置するなどの対策を検討する。

【図 ホワイエ動線計画図】



注) 施設利用者の動線に配慮して、ケース展示は可動式にする、デジタル展示(床・壁面)を導入するなど、施設内でのイベントに対応でき、かつ効果的な展示を今後具体的に計画します(民間事業者への提案募集等)。

(2) 展示計画

① 展示の基本方針

甲賀流忍者の遺産を見ることにより、よりリアルな甲賀流忍者に近づき、甲賀流忍者の特性に対する驚きや感動を得て、市内にある身近な日本遺産構成文化財への関心や竜法師地区をはじめとする施設周辺の地区の文化の再発見・創造へと結びつけるきっかけづくりとして、甲賀流忍者の末裔が保存する貴重な忍者史料や甲賀流忍者関連団体等の活動により明らかにされつつある甲賀流忍者の特性などを来訪者に伝えること、また、ロマンあふれる甲賀流忍者発見の旅へと誘う展示をすることが必要である。このことから、リアルな甲賀流忍者の展示を以下の方針に基づいて展開する。

基本方針1 甲賀市の魅力にたどり着く旅の起点とする

観光拠点施設における展示は、甲賀流忍者の紹介だけにとどまらず、リアルな甲賀流忍者を求めて忍者関連歴史資源を訪ねるきっかけを来訪者に与えるものである。

甲賀流忍者末裔に伝わる遺産の物語性豊かな展示によって、甲賀流忍者に対する驚きや感動を来訪者に提供し、展示によって得られた感動を市内の日本遺産を訪ね歩くことで更に深め、甲賀市の魅力発見へとつながる展示を行う。

基本方針2 実物とデジタルを織り交ぜ、身近に感じることができる展示とする

展示の対象年齢は、子どもから高齢者、外国人まで多様であるため、リアル忍者の歴史をわかりやすく効果的に伝えるには実物の展示のみではなく、デジタルによる展示を織り交ぜ、映像や音により興味をひく展示とする。そのため、実物とデジタルの融合に当たっては、民間事業者や有識者等へのヒアリングの下、当時の物語性を楽しく、相違なく身近に感じながら理解する展示を検討する。

将来的に、来訪者やリピーターの増加に伴い、展示内容の入替えも求められることから、既存関連団体等を通じて、甲賀流忍者末裔の方々が所有する甲賀流忍者関連資産の開示を働きかける。

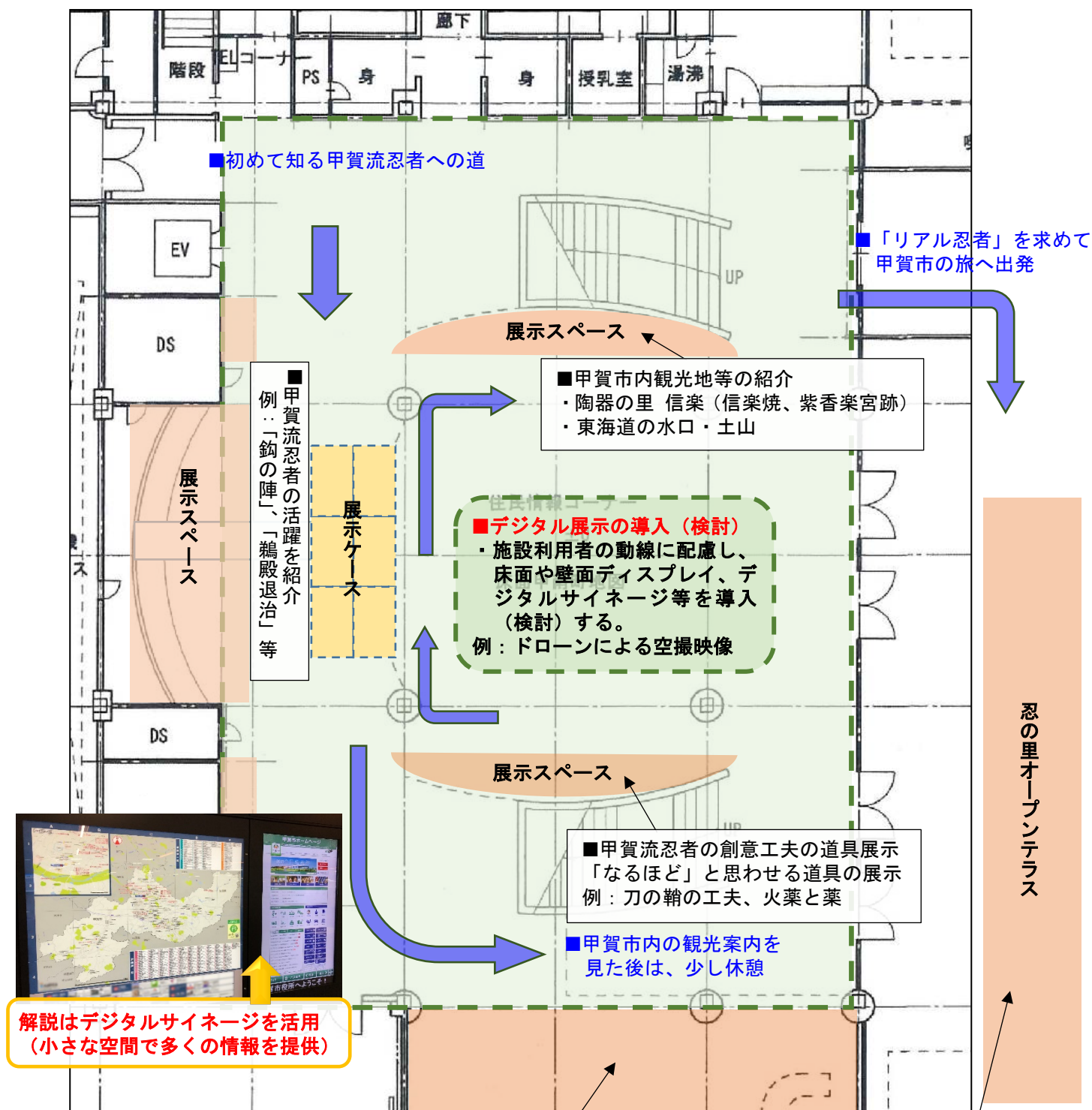
基本方針3 市内に限らず、全国にある忍者関連資源とのネットワーク形成を図る

忍者の歴史は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と全国統一を目指した戦国時代の武将達と密接な関わりがある。例として、滋賀県においては信長、秀吉に関する遺産・資産が多く残っており、これらとネットワークを形成することにより、戦国時代から江戸時代までの甲賀流忍者、甲賀武士の生き様に触れ、また新たな驚きや感動を呼び起こすことができる。段階的に全国のリアル忍者に関する歴史資源とのネットワークを強固にして、相乗効果を発現させ、より観光客が訪れる観光拠点の形成を図る。

基本方針4 インバウンド対応の充実化を図る

本拠点施設に訪れたインバウンドに対して、リアル忍者をよりわかりやすく、楽しく理解してもらう必要があるため、解説、施設周辺の案内等には、QRコードの活用やデジタルサイネージ等を活用し、リアル忍者に対する驚きと感動を損なわない展示を行う。

■ホワイエ1階部分の展示イメージ



注）館内の案内や資料説明は、
多言語対応とします。

注）ケース展示は可動式を検討
し、忍者検定等のイベントに
対応できるよう計画します。

■喫茶スペース、屋外カフェテラス
における情報入手機能の充実
・QRコードによる情報入手
・Wi-Fi 接続による情報入手
（タブレットの貸出）

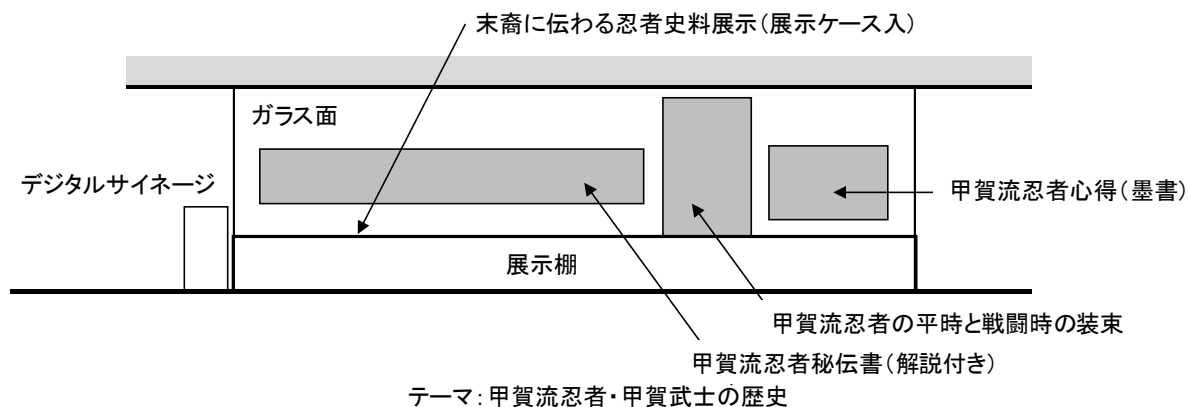
■忍の里オープンテラス
・来訪者の休憩施設である
とともに、イベント対応など施
設正面玄関の賑わいを演出
する空間として整備

■展示イメージ（※施設内の解説板・案内板や音声ガイド等は、多言語対応とする。）

■巻物等の展示イメージ（案）

忍術書のような巻物は、全貌を見せることが重要であり、また本物を展示する場合は紙の質を痛めないように幅が広い展示ケースを用意するとともに、ケース内の温度・湿度調節機能の導入が必要となる。

【図 1 F ホワイエ展示棚を活用した忍者史料展示（例）】



■ショーケース展示

展示物の規模が小さく、来訪者の手に触れることなく間近に見た方がより理解度が高まるような展示物についてはショーケース展示を行う。可動式のショーケースを検討し、忍者検定等のイベント時にイベントスペースが確保できるよう計画する。温湿度に敏感な展示物である場合は、温湿度管理を徹底する。

■現物展示

対象物の材質、光沢等を実感し、来訪者の興味・関心を引きつけるためには現物展示が適切な方法である。

地元等の協力により展示の一部を手作りすることで、甲賀流忍者の里というイメージに沿った効果的な展示も考えられる。



写真：甲賀流手裏剣
甲賀忍術博物館（甲賀の里忍術村）

■ジオラマ展示

必要に応じて、ジオラマ模型の展示を行う。地形を生かした山城の歴史の説明などは、地形的特質等がよりわかりやすい展示方法となる。



写真：山城跡（東迎山城跡、西迎山城跡）
市作成

■信楽焼の導入

甲賀市の特産品である信楽焼は、一般的な展示ではなく、施設の一部（例：トイレの洗面器、階段の手すりの一部等）に利用し、来訪者の興味を引く計画とする。場合によって、信楽焼の作家の作品展を期間限定で催すなど、相乗効果を狙えるイベントも検討する。



写真：信楽焼の壺、信楽焼のためぎ

■デジタルサイネージの活用

デジタルサイネージを活用し、限られた展示空間のなかで展示できなかった史料等をデジタルで見られるようにし、来訪者のリアル忍者への関心を高める。

徐々に館内のデジタル化を図ることにより観光客に与え得る情報量を増やす。

【設置例】

- 甲賀流忍者史料展示スペース：1台
- 甲賀流忍者創意工夫の道具展示：1台
- 甲賀市内観光案内コーナー：1台



写真：甲賀市役所内 デジタル案内パネル

■Wi-Fi 環境の整備

施設内で入手した観光情報（動画、サイト等）を喫茶・軽食コーナーや施設周辺で閲覧できるよう、Wi-Fi 環境を整備する。また、施設内利用のタブレット端末の貸出も検討し、誰もが気軽に情報にアクセスしやすい施設整備とする。

将来的に、観光客の増加に伴った Wi-Fi 整備の拡大を図り、施設間連携（道案内や総合案内アプリの活用等）を検討する。

■QRコードの活用

より詳しく知りたい観光客のため、施設内の展示物以外の情報も得られるサイト、アプリ等への誘導を検討する。各案内板や解説板に記すQRコードをスマートフォン、タブレット端末で読み取り、情報を手軽に入手できるように計画する。

喫茶・軽食コーナーでの休憩中や次の目的地までの移動中に、観光・歴史情報を確認できるようにし、時間を無駄にせずに観光を楽しめる仕組みづくりを検討する。



観光パンフレット等にQRコード活用

資料：「甲賀流忍者ガイドMAP」 甲賀市観光協会作成

以上のように、デジタル環境を整備することによって、より多くの情報を提供できるよう検討する。また、甲賀流忍者の末裔の方々が所有する貴重な遺産等の現物展示との融合・連携により、解説、案内が充実した観光拠点を形成するように計画する。

(3) 竜法師地区の回遊ルート設定とサイン計画

竜法師地区には甲賀と伊賀を結ぶ「伊賀街道」が残されており、街道の分岐点には道標をはじめ地域の信仰を集める寺社仏閣も多く残されていることから、今後、拠点整備の進捗に合わせ、地元住民の協力を得ながら、観光ルートの追加を行い、充実化を図る。

【図 竜法師地区の回遊ルート設定とサイン計画（イメージ案）】



■ サイン計画（案）について

1 総合案内板

「忍の里プララ」周辺地区全体の歴史・文化資産や甲賀流忍者関連施設、休憩所等の位置を示した案内板を下記の位置に設置する。

- 1 「忍の里プララ」に隣接する県道沿道に周辺地区全体の案内板を設置する。
- 2 県道交差点部において、新名神高速道路北側の丘陵地に残る「山城群」の位置を示した案内板を設置する。
- 3 伊賀街道入口を表示した石碑の近くに案内板を設置する。

2 施設解説板

当該施設の由緒由来等について解説する案内板を下記の位置に設置する。

- 1 「饗庭城」跡地が一望できる場所に施設解説板を設置する。
- 2 「新宮城」跡地が一望できる場所に施設解説板を設置する。

3 方向案内板

目標とする施設に至る途中の道路屈曲部等における見やすい位置に、方向を矢印等で示した案内板を設置する。

(4) 観光振興の仕掛けづくり

仕掛け① 竜法師地区をはじめ、市内における観光・交流振興リーダーの育成を図る

今後の市内の観光・交流振興のためには、地域や市内が一体となって観光振興を図る意識を持ちながら地域づくりをすることが不可欠であり、さらに、観光拠点を起点に、利用者、観光客を増やすためには、おもてなしの心を持った人材・リーダーを増やしていかなければならない。この人材の育成を官民一体になって進めていく。

甲賀流忍者を知り、誇りに思い、それを来訪者に伝えたいと願う方が増えることにより、観光拠点施設から広がりを持った地域活性化、観光振興が望める。

仕掛け② まちの魅力発見につながる効果的な情報発信を行う

甲賀市の魅力は、「忍者」、「信楽（信楽焼・紫香楽宮跡）」、「東海道」の3大資源をはじめとする様々な観光資源を有しており、これらの魅力ある観光資源の有機的なネットワークを構築し、甲賀市の総合的な魅力を高めることにより、甲賀市全体の観光地域としての振興を図る。このような魅力ある地域であることを全国に広報・啓発するために、驚きや感動のある展示物とともに記念撮影ができるようにする、また、施設内の展示物からインターネット環境に即時に情報を拡散できる仕組みなど、来訪者がSNS等を利用することによって情報を発信しやすい環境を整え、新たな観光客の創出を図る。

さらに、平成29年に東京日本橋にオープンした「ここ滋賀」においては、県と協議の上、好立地条件を活用した「忍者の里」の積極的な広報を展開し、首都圏からの来訪者増を図る。

仕掛け③ 市内周遊の向上につながる仕組みづくりを行う

観光拠点形成の目的は「リアル忍者」の啓発による甲賀市の観光振興でもあることから、来訪者が啓発されて市内を周遊し市内で充実した観光を行えるようにすることが必要である。甲賀市の観光は、「陶芸の森」をはじめとする観光施設はあるものの、観光客をもてなす、おもてなし空間としてはまだ十分であるとは言えないことから、時間を使い、満足度の高い観光を増やすよう、事業者や地域との協力の下、観光地間のネットワークを構築し、甲賀市内の観光で消費する時間を増やすことを考える。

そのために、3次ネットワークまでの形成過程において、拠点施設から市内観光施設・資源や飲食店舗、土産販売店等の割引券、特典券等を発行するなど、次の観光につながる、周遊の向上につながる仕組みづくりを検討する。

仕掛け④ 広域（県内）連携によるプロモーションを展開する

滋賀県の観光は比較的通過観光が多くなっていることから、県内観光地が連携して観光客を誘致する広域のプロモーションを積極的に展開する。

また、このような広域プロモーションの展開は自治体では限りがあることから、大手旅行会社などと連携するなど効果的な観光プロモーションを展開することを検討するとともに、県内にある既存の「道の駅」においても観光拠点施設をプロモーションする。

仕掛け⑤ 地域の魅力向上につなげるモノを育成する

1) おもてなし力の向上

持続的な観光振興を図っていくためには、ハード・ソフトの両面において快適な受入れ体制を整備し、来訪者の満足度を高める環境づくりが極めて重要である。

第1次ネットワークの構築から、施設周辺地区における施設や地元住民の理解と協力が必要であり、多くの方のおもてなしの心を育み、高めることが重要である。地区内において拠点施設整備にかかる説明会だけでなく、来訪者に対するおもてなしの方法や行政による支援方法等について、市民と行政が一体となった、これからの甲賀市のあり方を検討する。

2) 「食」に係る地域ブランドの創出

観光客にとって「食」は重要な位置づけとなる。特に、甲賀市で多く時間を消費する事を考えると複数の魅力ある「食」が必要である。既存の特産物のほか、新たな「食」の創出を図り、観光協会や市内の飲食店等を交えて今後の「食」の魅力づくりを検討する。

さらに、将来的には甲賀市の地域ごとの特性を生かし、多様性に富んだ魅力あるテーマ性を持った商品を提供・発信することを検討する。

3) 特産品等の開発と販売促進

多くの観光客の来訪を契機として、甲賀市の新しい特産物開発・商品化を推進し、積極的な販売促進を行うことにより、地域経済の活性化を図る。

【甲賀市の特産品（一例）】

信楽焼	土山茶	朝宮茶
		
竹ものさし	成田牧場のジェラート	鹿深みそ
		

参考：甲賀市観光協会HP (<http://www.koka-kanko.org/contents/goods.html>)